

導入事例：東京通信ネットワーク株式会社

40万ユーザーものメール着信通知を支える 「CTstage キャリア/ISPソリューション」

東京電話アステルではこの2月1日より、オープンインターネットサービス「ドットi」の機能拡充を行った。そのひとつがeメールサービスにおけるメール着信通知の高機能化で、PHSで簡単にメール送信者、タイトル、添付ファイルの有無などが確認できるようになった。今期中に40万ユーザーを目指す、この大規模システムを支えているのが、沖電気の「CTstage キャリア/ISPソリューション」なのである。

ユーザ・プロフィール

東京通信ネットワーク株式会社(略称TTNet)

本店住所：東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル

TEL：03(4555)0081 URL：<http://www.ttnet.co.jp/>

東京電話アステル オープンインターネットサービス「ドットi」サービスを拡充

メール着信通知の高機能化：送信者、タイトル、添付ファイル有無などを通知

“スーパー着メロ”オープン：1200曲以上のダウンロードが通話料のみで可能

(詳細は「ドットi」URL：<http://ttnet.tokyo-denwa.net/>)



東京通信ネットワーク(株)
技術部アステルサービス開発グループ
マネージャー 川端 文雄氏

CTstage導入による ドットiの機能拡充

オープンインターネットサービス「ドットi」は、ドットi仕様のPHS端末だけでなく、パソコンやPDAと同じようにホームページを見たり、eメールを送受信したり、インターネットを自由に楽しむことができるというものだ。優れた通信品質と高速データ通信といったPHSの特徴を活かすとともに、インターネットで標準的に採用されているプロトコルであるTCP/IP、PPP、HTTP、POP3、SMTPを採用したオープンな規格であることが大きな魅力となっている。

「今までの携帯電話のインターネットサービスでは、携帯電話会社が設けたセンター経由でないとインターネットに入っていけませんでした。今回のドットi端末ではドットi専用アクセスポイントの他に3件までのダイヤルアップ設定ができるため、1つを個人が契

約しているプロバイダーに、もう1つを会社のイントラネットのアクセスポイントに設定するということが可能で、自宅や外出先からそれぞれのメールアドレスでeメール送受信ができるなど、使い勝手が大きく広がりました」(東京通信ネットワーク株式会社 技術部アステルサービス開発グループ マネージャー 川端文雄氏)。

従来までのドットiのeメール着信通知においては、eメールが来たことを伝えるだけの機能しかもっていなかった。一般ユーザーとしては、誰から送信されたのか、タイトルや、添付ファイルの有無などを確認したいという要望が強い。

こうしたことから、技術部では昨年春から機能拡充に取り組むこととなった。その時、川端氏たちの注目をひいたのが、「これまでのサーバーではサポートしておらず、唯一CTstageのみがサポートしていた」というISDNのUUI(User User Information)機能だった。

低コストと開発効率が CTstage導入のポイントに

UUIはISDNのDチャンネルを使ってユーザー間で128バイト以下の短いメッセージをやりとりする機能である。通常の携帯電話メールサービスでは、メール着信情報(差出人、タイトル等)以外に、メール本文や添付ファイルもユーザーに配信されるために、不要なメールの転送料金もユーザー側に課金されてしまう。UUI機能を利用すれば、メールの着信情報だけをPHS端末に通知し、ユーザーが必要なメールだけを選択してアクセスできるようになる。CTstageはまさにこのUUI機能をサポートし、簡単に利用できるようになっていたのだ。

「CTstageのハードウェアには、ISDNの回線インターフェースが備わっています。通常のUNIXサーバーにダイヤルアップのアクセスサーバーをつけ、回線をつなげるという構成を取ると、

アクセスサーバーの細かいコントロールがUNIXサーバーからは制限されてしまいます。その点、CTstageはすべてが1つのハードウェアで構成され、開発に必要なモジュール群もデフォルトで揃っており、一から作り込む必要がなく、開発効率が非常に高いと言えます。トータルの導入コストを抑えることができ、後々のメンテナンスを考えた時にも優位性があり、それが導入の大きな動機になりました（川端氏）。

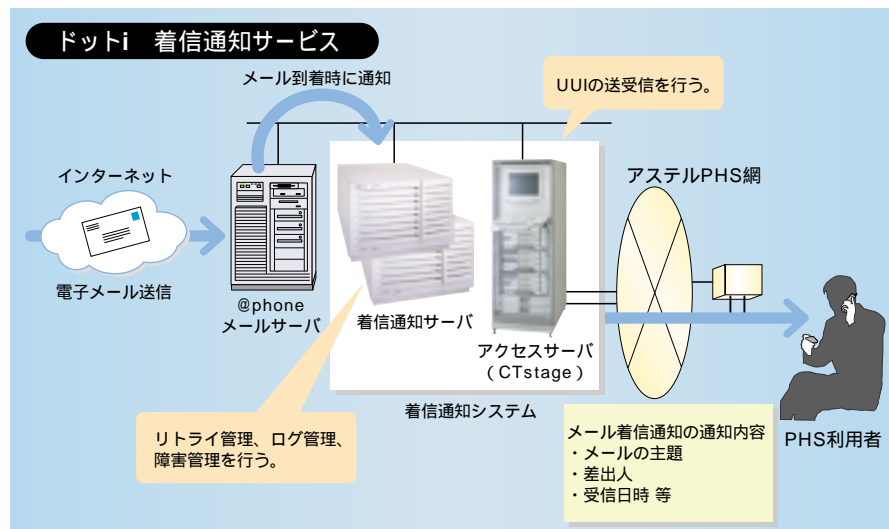
CTstageがコンピュータ単体でPBX機能を提供するUnPBXシステムだからこそ、高いカスタマイズ性や保守性、コストパフォーマンスが実現できる。しかも、WindowsをベースとしたオープンCTI製品で、自身のAPIをCT-APIとして公開し、各種オープン製品との連携を実現しているので、カスタマイズなどアプリケーションの開発が容易なことも利点となっている。

電源の二重化、RAID化など 高可用性、高信頼性も実現

CTstage導入を核としたeメール着信通知の高機能化により、メールの着信日時、送信者のメールアドレス（先頭20文字まで）、タイトル（全角20文字程度）、メールサイズ（添付ファイル含む）、着信通知の通知元サーバー名などの情報を送ることが可能になった。また、メールタイトルに則した至急、返信要求などのアイコン画面表示や、着信通知端末の電源が切れていた、電波圏外だった時のためのリトライ機能も追加された。

昨年の12月15日よりサービスを開始したドットi。春までに4万ユーザー、今期中には40万ユーザーにまで拡大していく計画だ。キャリア/ISP向けソリューションでは、大規模な収容回線数、顧客数への対応や、システム拡張に伴う性能向上や回線増設への容易な対応、24時間365日の高可用性や高信頼性も要求される。

「信頼性はやはり最も重視しました。電源の二重化、ディスクのRAID化などもしっかりしており、CTstageにより



高可用性も実現できたと考えています」（川端氏）。

さらに、サーバー単位でシステムを二重化し、1台が倒れても、もう1台でサービスが継続できるようなn+1構成を取るなど、全体の構築にも工夫を凝らした。ユーザー数の増加に伴い、CTstageも順次増設していけるような拡張性も備えているという。

「CTstageの市場での評価は非常に高いですから、私たちが法人向けの営業を展開する時には、アステルのPHSとCTstageを組み合わせ、お客さまのイントラネットを提案してゆくというように、ネットワークソリューション、システムソリューションの一手段として活用していければと思っています」（川端氏）。

アステルの営業戦略のキーとなるサーバーとしてCTstageを活用する。今回のCTstage導入には、そんな将来の戦略も織り込んでいるのだ。

アステルのPHSとCTstageで 企業のソリューション提案を

最近、企業ではCRMへの関心が高まっているが、営業や保守担当に携帯電話を持たせ、顧客情報や営業情報に活用するモバイル連携も始まっている。出先などで顧客情報を確認したり、過去の営業報告やスケジュール、eメールの確認に利用するのだ。

アステルのメールサーバーだけでな

く、社内にあるイントラネットのメールサーバーからeメールの着信をダイレクトに通知するなど、さまざまに活用してほしいということから、同社では着信通知の仕様公開をしている。「たとえば、会社のメールサーバーに自分宛のメールが届いたら通知してくれるような仕組みを、CTstageを使い構築していただくということが可能になります」。

また、ドットi端末間では、直接メールのやりとりができる「ダイレクトメール」機能もある。これを利用すれば、ある重要な顧客からのメールだけは通知ではなく直接転送するというフィルタリング機能をCTstage上に構築することも可能だ。

仕様公開により、各企業では、イントラネットのアクセスサーバーに直接ダイヤルアップし、顧客の取引情報をドットi端末に表示するとか、在庫管理のデータを営業マンに見せるなど、さまざまな利用形態に合わせたアプリケーションが開発できる。そうすればドットi端末が営業マンの情報端末として、大きな可能性を広げていくことは確かだ。

記載の会社名及び製品・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

お問い合わせ

沖電気工業株式会社

PC/WS インフォメーションセンター

TEL.0120-490988

URL.http://www.ctstage.com/